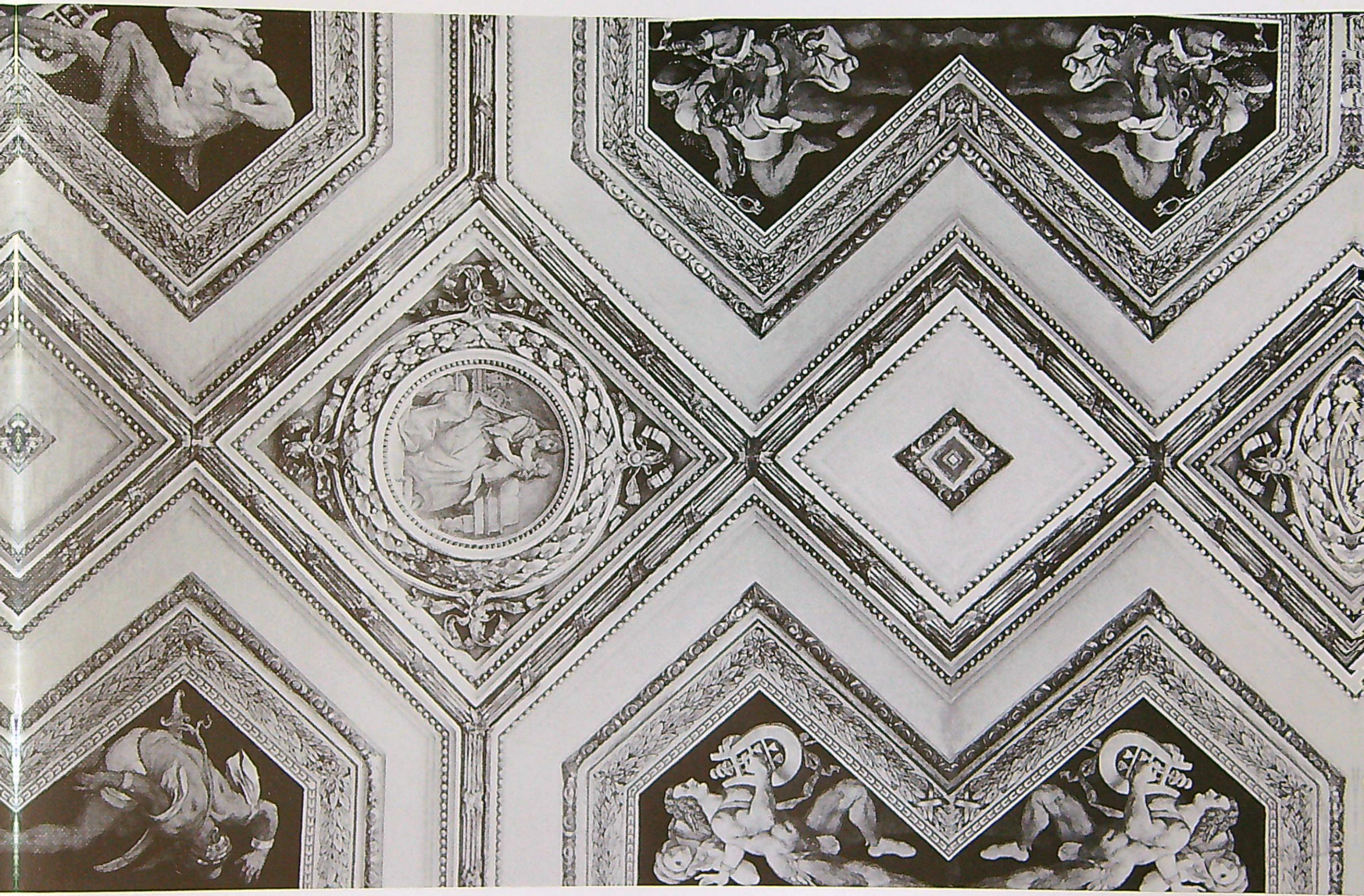




OPERA

COSÌ ERAN TUTTE









Oper buffa in zwei Akten

# COSÌ FAN TUTTE

全2幕

コシ ファン トウツテ  
～女はみんなこうしたもの～

台本／ロレンツォ・ダ・ポンテ

作曲／ヴォルフガング・A・モーツァルト

訳詞／中山 悌一

'85 11 / 14(木) PM 6:00 福山市民会館  
主催／中国二期会 後援／福山市教育委員会 福山文化連盟





スタッフ

総監督……近藤安介  
 指揮……岡田司  
 演出……清宮秀高  
  
 装置……石井みづる  
 衣裳……岸井克己  
 照明……大塚和真  
 舞台監督……田和伸二  
 副指揮……大塚博  
  
 稽古ピアノ……佐野文子  
                   難波正明  
                   森田美智子  
  
 舞台……大塚舞台  
  
 事務局……玉垣夫規子  
                   有安泉

キャスト

フィオルデイリージ……平本弘子  
 ドラベツラ……松本弘美  
 グリエルモ……奥田誠  
 フェランド……日高好一  
 デスピーナ……平田佳子  
 ドン・アルフォンゾ……黒岩悟  
  
 兵士……金沢英雄・甲田博明  
 酒場の男……塩出二郎・綾芳一  
 子供たち……日高満知子・後藤麻都香

管弦楽

倉敷管弦楽団

チェンバロ

難波正明

合唱

二期会合唱団





- 1756年——1月27日、ザルツブルクに生れる。
- 1761年(5歳)——父レオポルトの手ほどきにより、作曲を始める。
- 1762年(6歳)——家でドイツ、フランス、イギリス、オランダ各地に演奏旅行に出かけ、天才少年との絶賛を受ける。
- 1766年(10歳)——イタリアでオペラ等を学び、自らも新作オペラの上演に成功する。
- 1772年(16歳)
- 1773年(17歳)——父とウィーンに旅行し、ハイドン、ブルック、サリエリなどの作品を学ぶが、ウィーンでの就職には失敗する。交響曲ト短調(K183)。
- 1775年(19歳)——ミュンヘンで学び、新作オペラ・ブッフア『偽の女庭師』の上演が大成功をおさめる。  
このころ、ザルツブルクの宮廷作曲家として、数多くのディヴェルティメント、教会ソナタを作曲。
- 1777年(21歳)——ザルツブルクの宮廷作曲活動に嫌気がさし、辞職して母親と旅に出る。ミュンヘンで就職失敗、マンハイムに到着。
- 1778年(22歳)——マンハイムで知ったソプラノ歌手アロイジア・ウェーバーに恋する。マンハイムでも就職運動に失敗し、父の厳命によってパリへ出立する。パリでも就職に失敗するも、交響曲『パリ』の演奏は成功する。が、母親が旅先で死亡。パリを発って帰郷の途につくが、途中ミュンヘンに立ち寄り、アロイジアに失恋。

- 1779年(23歳)——宮廷オルガニストになる。『戴冠式ミサ』。
- 1781年(25歳)——オペラ『イドメネオ』ミュンヘンで上演。  
ウィーンの大司教ヒエロニムスの仕打に耐えかね辞職を申し出る。アロイジア・ウェーバーの妹、コンスタンツェに恋する。
- 1782年(26歳)——『後宮よりの逃走』初演が大成功を収める。  
父親と反対を押しきってコンスタンツェと結婚。
- 1784年(28歳)——演奏・作曲活動を活発に行ない、成功が続く。  
フリーメイソンに加入。
- 1785年(29歳)——父親がウィーンに滞在、長年の不和を解く。  
ピアノ協奏曲ニ短調(K466)、ハ長調(K467)。
- 1786年(30歳)——『フィンガロの結婚』初演、大成功を収める。  
ピアノ協奏曲イ長調(K488)、ハ短調(K491)、ハ長調(K503)。交響曲第38番『プラハ』。
- 1787年(31歳)——父と死別。『ドン・ジョヴァンニ』初演。  
グルックのあと、宮廷室内作曲家に任ぜられる。
- 1788年(32歳)——三大交響曲(第39、40、41番)作曲。
- 1790年(34歳)——『コシ・ファン・トゥッテ』初演。  
皇帝ヨゼフ2世没。経済的窮乏はげしい。
- 1791年(35歳)——『レクイエム』の注文うける。  
『魔笛』初演、好評を得る。  
病床につき、12月5日永眠。

●参考文献：『モーツァルト——音楽と旅の生涯——フェリシアン・マルソー / マルセル・ブリュヴァル著

Wolfgang A. Mozart





## 〈開幕の前に〉

モーツァルトは未完のオペラを加えると20曲以上の劇的作品を書いた。そしてそれらは伝統的なオペラ・セリア（正歌劇）とイタリア風の陽気で軽快なオペラ・ブッフア（喜歌劇）、それにドイツの民衆的な歌芝居ともいべきジंकシュピールに大別出来る。つまりモーツァルトは当時のヨーロッパにおけるオペラ的要素のほとんどを自家菜籠中のものでしていた。ある人は「ナポリ楽派によって大きく成長したオペラ・ブッフアは、モーツァルトにおいて完成した」という。オーストリアのザルツブルグに生れ、ウィーンを中心に活躍したモーツァルトについてこの言葉は奇異に聞こえるかもしれない。だが、神童として名の高いわが子を当世流に言ってPRしようとするれば、諸国の王侯や宮廷を歴訪する以外に手段のなかった時代だけに、父親のレオポルトは幼いモーツァルトをつれてパリやイタリアに旅をした。イタリアにはじめて旅したのは1769年で、モーツァルトがわずか13歳のときであった。明るい南欧の音楽が幼い新鮮な感受性にどんな影響を与えたことだろう。

その後のたび重なるイタリア旅行は当時イタリアやフランスを席捲していたオペラ・ブッフアに耳を傾ける機会を作った。「にせの花作り女（フィント・ジアルディニエラ）」「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」などオペラ・ブッフアの傑作が彼の円熟した完成期の作品の大半を占め、「魔笛」にさえオペラ・ブッフア的要素が、パパゲーノ、パパゲーナを通して見られるのもその成果かもしれない。

「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」につき、「魔笛」をあとにひかえた「コシ・ファン・

トゥッテ」もその傑作の森の中のひとつで、簡素な構成の中に珠玉のような音楽があふれている。

この「コシ・ファン・トゥッテ」というのは、前作「フィガロの結婚」の第1幕、第7番のスザンナ、伯爵、バジリオの三重唱で、フィガロとの結婚を目前にひかえたスザンナの部屋に小姓のケルビーノがかくれているのを発見した伯爵が、あまりのことにおどろいているとき、バジリオが「女はみんなこうしたもの」と皮肉りながらくりかえす言葉からこの題名が生れたというが、このオペラのもうひとつのタイトルを「恋人たちの学校」というように、たとえ愛し合う男女でも、女はとかく浮気なもの、それを恋の真実を信ずる恋する男と、世のすべてを知りつくし、女の愛情というものはこんなものという老哲学者が芝居をしくんで実際にテストしてみようという筋、いたって陽気な喜劇なのだが、この現実離れをしたおとぎ話的な内容の中にも、人間の愛情について考えさせるものがある。

## 〈初 演〉

このオペラは1790年1月25日にウィーンの宮廷劇場で初演された。前作の「フィガロの結婚」の成功にかんがみ、皇帝ヨーゼフII世の御下命により作曲したとも、初演後約1ヶ月で崩御された病身の皇帝をおなぐさめ申し上げるために作曲したともいうが、このダ・ポンテの台本についてはいろいろな論議がある。だがモーツァルトの音楽、とくにアンサンブルの美しさは比類がない。

## 〈とき・ところ〉

このたのしいオペラ・ブッフアがくりひろげられるのは南欧の陽光の輝くナポリ、時代はとくに指定はないが、元来こうした作品はあらゆる時代に通じるもの、強いて言えばこの曲の書かれた18世紀と考えておくことにしよう。

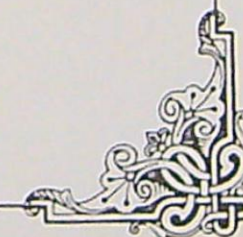
北イタリアの都市フェルラーラ生れの2人の貴婦人フィオルディリージ（ソプラノ）と妹のドラベッラ（メゾ・ソプラノ）。このフェルラーラ生れというのは言葉の綾で、フェルラーレという「鉄かぶとで武装する」という言葉、つまり「貞操堅固な」という言葉をもじっているダ・ポンテの設定は気がきいている。

その2人のそれぞれの恋人、フィオルディリージの恋人グリエルモ（バリトン）、ドラベッラの恋人フェランド（テノール）はいずれもさっそうたる青年士官である。

フィオルディリージの家にはデスピーナ（ソプラノ）という仲々気転のきいた女中がいる。彼女が2人の士官たちの友人で老哲学者のドン・アルフォンゾ（バス）とうまく組んで芝居をすすめてゆく。

なおナポリ楽派のオペラ・ブッフアの伝統に従い、劇は一日の出来事で、このオペラも24時間のうちに展開し解決する。

作品について







フィオルディリージ



(結婚の衣裳)  
ドラベツラ



デスピーナ



グリエルモ  
フェランド

### <第1幕>

フィナーレの前にドン・アルフォンゾが歌う「コシ・ファン・トゥッテ」の旋律をとり入れた明るく軽快な序曲に続いて、舞台は南国的香りの高いイタリア・ナポリ。ここに住む姉妹、姉のフィオルディリージ（ソプラノ）にはグリエルモ（バリトン）、妹のドラベツラ（メゾ・ソプラノ）にはフェランド（テノール）という、いずれも青年士官の許婚がいる。第1幕・幕が上がると舞台は居酒屋の中。二人の士官と老哲学者ドン・アルフォンゾ（バス）の三人が女の操について議論を戦わせている。恋人たちの操を信じる二人の士官は「女の操は堅固だ」と言うが、世の酸いも甘いも噛みつくしたドン・アルフォンゾは、人生の先輩らしく「女の操はそんなに堅固なものではない」とたしなめ、とうとう女性たちには内緒に、これから24時間はドン・アルフォンゾの言うとおりに行動すると約束（三重唱）、賭をすることにして退場。舞台は変わって、海辺を見晴らす庭園。フィオルディリージとドラベツラ姉妹が、それぞれ恋人たちの絵姿を手に、彼らの来るのを迎えようと胸はずませて入ってくる（二重唱）。ところが、そこに現れたのは彼女たちの待ち焦がれる人で

はなく、老哲学者のドン・アルフォンゾ。彼女らの恋人たちが突然戦場へ行くことになった、と告げる。試されているとも知らず姉妹が驚いているところに、ドン・アルフォンゾの指図どおり、軍服を着たグリエルモとフェランドが登場、芝居気たっぷり、悲しそうに恋人たちと別れを惜しむ（五重唱）。その時、遠くから兵士たちを送るマーチと合唱が聞こえ、グリエルモとフェランドは小舟に乗って去って行く（五重唱）。悲しむ女たちをドン・アルフォンゾが慰めて退場（三重唱）、舞台は姉妹の部屋に変わる。姉妹に仕える小間使いデスピーナ（ソプラノ）が姉妹の朝食を持って登場、女中稼業のしなさを嘆いていると、悲しみに打ちしおてた姉妹が現れ、ヒステリックにデスピーナに当たり散らした上、妹のドラベツラは「激しい心の痛みが」と悲しみのアリアを歌う。二人から、恋人たちが戦場に行ってしまった、と聞いてデスピーナは、この機会に女も負けずに浮気をしましょう、とアリア「男たち、まして兵士は」を歌う。デスピーナのこの思いがけない言葉に姉妹は怒って部屋を出、入れ違いに入ってきたドン・アルフォンゾは、デスピーナに金を握ら

せて、この企みの仲間に入れられる。そこへドン・アルフォンゾの計略に従ってアルバニア貴族に変装したグリエルモとフェランドが登場、デスピーナに令嬢たちへのとりなしを頼む。やがて奥から出て来た姉妹は、見てくれも悪い二人の男を気味悪がって取り合おうともしない。ドン・アルフォンゾが男たちを旧知の仲と紹介すると、彼らは言葉の限りを尽くして姉妹に愛を訴える（六重唱）。しかし姉妹は頑にそれを拒み、姉のフィオルディリージは、アリア「岩のように動かずに」を歌って操を守り通すことを誓う。男たちは内心ほっとしながらも24時間内はドン・アルフォンゾの指示に従わねばならない（三重唱）。フェランドは賭に勝った時の喜びを夢みて、アリア「恋人を慰めて」を歌う。舞台は変わって再び海辺を見晴らす庭園。恋人たちは戦場に行き、わけもわからぬ二人のアラビア人に口説かれて姉妹が途方にくれていると、その二人の男が今度は手に毒薬の瓶を持ち、自殺しかねぬ勢いで駆けこんで来てその場に倒れる。驚いた姉妹がドン・アルフォンゾの助けを借りてデスピーナに医者呼びに行かせるが、医者呼びに行ったデスピーナ自身が当の医者

あらすじ





ドン・アルフォンソ



フェランド  
のグリエルモ  
の変装



デスピーナの変装(医者)



デスピーナの変装(公証人)

に変装して駆けつけ、大きな磁石を手に、妙なまじないを言いながら治療を始める。おかげで男たちは生命をとりとめるが、それでも姉妹の気持は容易に動きそうにない。それを見て男たちは内心喜びながらも、またまた死ぬと騒ぎ出すので姉妹は怒って出て行き、男たちは賭に勝ったものと内心喜ぶ。

## 〈第2幕〉

最初の場面はフィオルディリージとドラベッラ姉妹の部屋。デスピーナは姉妹に、年頃の娘としての恋の心得を悟し、アリア「女も15になれば」を歌う。その甲斐あって、姉妹の間でも男たちに同情を寄せ始めた様子。姉妹の間には「相手を選ぶならどちらの方が」などという会話も聞かれるようになる(二重唱)。場面は変わって海辺を見晴らす庭園。グリエルモとフェランドは姉妹にセレナードを捧げ、ドン・アルフォンソとデスピーナの激励を受ける。そして、庭に出た恋人たち四人は、正式のカップルとは

逆の組合せ、即ちドラベッラはグリエルモ、フィオルディリージはフェランドと組んで、何やらよそよそしい語らいを始める。そして、妹のドラベッラは、姉の恋人グリエルモ粉するアラビア人貴族に心を動かし、愛のしるしのペンダントを交換する(二重唱)。一方、フィオルディリージの方はフェランドの口説きに向いて靡く様子はなく、戦場に行った恋人の身を案じて、女の身ながら軍服を着て恋人の所へ駆けつけよう、とロンド「恋人よ、許して下さい」を歌う。グリエルモからドラベッラの心変りを聞いたフェランドは憤慨、なんとしてもフィオルディリージを陥落させてグリエルモの鼻をあかそう、と敵愾心を燃やし、グリエルモは、アリア「ご婦人方は」を歌ってフェランドを慰める。舞台は変わって姉妹の部屋。既にアラビア人に心奪われてしまった妹とデスピーナには煽られ、更に巻き返しを図るフェランドの全力投球にあって、さしもの頑なフィオルディリージの気持も、とうとうぐらついてきた様子。ドラベッラは姉に「恋の勧め」ともいべきアリア「恋はくせもの」を歌う。こうして二人のアラビア人貴族は恋を達成、この大芝居を仕組んだドン・アル

フォンソは「コシ・ファン・トゥッテ(女はみんなこうしたもの)」と賭に敗れた二人の男を慰める。大詰め、姉妹の邸の広間では、いよいよ二組の結婚式が始まる。使用人たちを指図して、かいがいしく立ちまわっていたデスピーナが、結婚式が始まると、今度は公証人に扮して面白おかしく結婚契約書を読み上げ、二組の新郎新婦はこれに署名する。その時、遠くから軍歌が聞こえ、ドン・アルフォンソは自分の仕組んだこととはいえ、士官たちが帰国して来たことを姉妹に知らせる。顔面蒼白、姉妹が慌てて新郎たちを隠そうとするのを幸い、二人の男は変装を解いて軍服姿で姉妹の前に現れる。男たちは、姉妹の何かよそよそしい態度を訝り、不安を抱く。その上、ドン・アルフォンソがそれとなく床に落とした結婚契約書を見つけて烈火の如く怒る。こうして娘たちは、ここで自分たちの浮気心を悔い、一方、賭に勝ったドン・アルフォンソは、四人の仲を元通りに収め、一同、愛と操を讃えるうちにめでたく幕となる。







指揮

岡田 司

1953年大阪生まれ。指揮法を故・斎藤秀雄、山田一雄、フルートを林リリ子の各氏に師事する。77年広島交響楽団を指揮、以来京都市交響楽団、新日本フィルハーモニー、東京都交響楽団、東京交響楽団、関西フィルハーモニー他数多くの団体と共演している。79年には渡米、パークシャー・ミュージックセンターで小澤征爾氏の指導を受ける。帰国後は、各地の二期会、日本オペラ協会を中心に、W. サヴァリッシュ氏、Z. コシュラー氏、若杉弘氏等多くの指揮者のもと、40本余りのオペラで



フィオルデリージ

平本 弘子

広島大学教育学部音楽科卒業。小林敦子、千葉佳子、大熊文子・K. リヒター木下武久の諸氏に師事。ルツェルン・コンセルバトワール夏期マイスターコースに参加。シュトゥットガルト音楽大学に留学、K. リヒターのクラスで独歌曲を学ぶ。ベートーヴェン「第9」のソロ、モーツァルトのコンサート用アリアのソロ。マラー「子供の不思議な角笛」のソロ。リサイタル開催。オペラでは、「アマールと夜の訪問者」のアマール、「電話」のルーシー、「酒吞童子考」のあかね、「海の子守唄」の若い娘、「魔笛」のパミーナ、「フィガロの結婚」のスザンナ役に出演。現在、福山女子短期大学助教授。



ドラベツラ

松本 弘美

中国短期大学音楽科卒業。同大学専攻科及び聴講生修了。声楽を黒岩 悟氏に師事。岡山県新人演奏会に出演。現在、中国短期大学フラウエンコールのヴォイストレーナー、就実短期大学・就実女子大学グリークラブ、旭化成シルバーコーラス常任指揮者。



グリエルモ

奥田 誠

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院オペラ科修了。柴田睦陸、石津憲一、佐藤 晨、コラ・ルッチの諸氏に師事。第20回芸大オペラ「外套」のミケーレでデビュー。その後「ジャンニスキッキ」のタイトルロール、「ホエム」のマルチェロ、「蝶々夫人」のシャープレス等数多くのオペラに出演。創作オペラでは「更科記」、「酒吞童子考」の黒嶺、「はだしのゲン」の大吉に出演し、好評を博した。また、ベートーヴェンの「第九」、ヘンデルの「メサイア」、リスト及びフォーレの「レクイエム」、モーツァルトの「戴冠ミサ曲」、マラーの「子供の不思議な角笛」、オルフの「カルミーナ・ブラーナ」のソリストとして、広島交響楽団、広島JMJオーケストラ等との共演をはじめ、リサイタル・各種コンサート等、幅広い演奏活動を続けている。現在、広島大学助教授。



演出

清宮 秀高

東京生れ。藤原歌劇団において数多くのオペラにたずさわり、1968年には3ヶ月間オーストラリアThe Elizabethan Trust Opela Companyの招聘によりお蝶夫人を演出レテリ・テレグラビュー紙上で「忘れられぬ日本人による「お蝶夫人」の演出」と絶賛を博した。現在、東京芸術大学オペラ科演出部講師。



フェランド

日高 好一

洗足学園大学声楽科卒業。同大学専攻科修了。島田恒輔、三枝喜美子の諸氏に師事。東京二期会合唱団に入団。主要メンバーとして、ソロパートを受け持ち、数々の二期会オペラに出演。関西日伊コンクールでテノール特賞を受賞。民音コンクールで入選。オペラ「海の子守唄」の六郎治役、創作オペラ「温羅の誓」の石勝役、広島オペラ「はだしのゲン」の浩二役、「ボーギーとベス」のスポーティング・ライフ、「魔笛」のタミーノ役、「フィガロの結婚」のバジリオ役、等を演じる。リサイタル開催。現在、岡山大学、中国短期大学非常勤講師。



デスピーナ

平田 佳子

大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業。八木正一、平本弘子、田原祥一郎の諸氏に師事。58年、尼崎、ビッコロシアターにおいて、田原門下生によるヴォーカル・コンサート、56年、58年夏、福山市においてサマー・ヴォーカル・コンサートに出演。室内オペラ「おこんじょうり」のおこん役を演じる。



ドン・アルフォンゾ

黒岩 悟

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修士課程修了。中山悌一、柴田睦陸、渡辺高之助、ニコラ・ルッチ、木下武久の諸氏に師事。40年「フィガロの結婚」のバルトロ、41年「ドン・ジョバンニ」の騎士長、43年「カルメン」のダンカイル役に出演。岡山に於て、「アマールと夜の訪問者」、「雪女風土記」、「海の子守唄」、「魔笛」、「あまんじやくとつりこひめ」等に出演。56年「ボーギーとベス」で主役ボーギー役に出演。他、香川県芸術祭主催、徳島県芸術祭主催のベートーヴェン「第9」ソリストとして出演。現在、中国短期大学教授。





### 第1 ヴァイオリン

佐藤真理子  
菊池 東  
中桐佐知子  
大江恭子  
山名 良  
陶山容良  
浅井直樹  
園田哲郎

### 第2 ヴァイオリン

木村啓子  
赤沢和美  
岡崎良弘  
勝部万里子  
河村真知子

### チェロ

西田毅雄  
田辺幹夫  
光延勢吾  
黒田正典

### ヴィオラ

黒住彰夫  
友野良一  
武本克巳  
勝部喜代志

### コントラバス

松本高広  
本屋敷勝信  
難波由宏  
ティンパニ  
陶山京子

### フルート

坂口充倫  
片山知子

### オーボエ

角田容子  
秋山慶子

### クラリネット

川名光治  
川名あき

### トランペット

森田裕三  
岡本卓也

### ファゴット

稲田裕彦  
新山王政和

### ホルン

吉市幹雄  
文谷 功



チェンバロ

難波正明

昭和59年、東京芸術大学音楽学部楽理科卒業。

現在、岡山大学大学院教育学研究科音楽教育専攻在籍。

ピアノを石澤秀子、安藤仁一郎、両氏に師事。

音楽学を、角倉一郎氏に師事。



副指揮

大塚 博

国立北西ドイツ音楽院デトモルト、国立音楽大学で学ぶ。

トロンボーンをヴィリー・ヴァルター、伊藤清の各氏に師事。

オーケストラをマルティン・ステファニーニ、クラウス・エッセンバッハ、管楽アンサンブルをヨスト・ミヒャエルの各氏に師事。

現在、岡山中学、玉野光南高校非常勤講師、金山学園吹奏楽部金管楽器指導講師。



### Sop

康 広 美千子  
古 賀 照子  
鈴 木 克美  
六 戸 尚子  
柴 田 久美子  
鈴 木 啓子  
慶 児 道代

### Alto

出 原 昭子  
矢 田 信子  
雪 吉 恵子  
桑 田 典枝子  
園 田 修子  
坂 本 美穂子  
小 谷 和子  
寺 内 洋子

### Ten

井 上 隆史  
中 川 浩一  
舟 木 勝宏  
河 崎 悟  
高 脇 靖  
斎 藤 政直

### Bass

江 戸 努  
羽 島 一郎  
瀧 内 徹  
長 尾 歩  
菊 池 重雄



中国二期会のあゆみ

- 昭和48年 7月 支部設立 会員6名。オーディションにより新  
 10月 会員10名、準会員8名、総勢24名により発足。  
 設立記念演奏会(岡山三木記念ホール)  
 昭和49年 4月 49年度会員準会員募集、10名応募中会員2名、  
 準会員1名合格入会。  
 5月 研究生制度発足 第一期生17名、予科入学。  
 7月 高松演奏会(高松農協会館)  
 昭和50年 3月 研究生修了演奏会(岡山文化センター)  
 5月 50年度会員準会員募集、12名応募中会員2名、  
 準会員2名合格入会。第二期研究生10名入学。  
 7月 "歌曲の夕べ"岡山文化センター  
 "モーツァルトの作品によるサマーコンサート"  
 (高松農協会館)  
 10月 オペラ公演"炭焼姫""アマールと夜の訪問者"  
 (井原9日、10日)  
 昭和51年 3月 研究生修了演奏会  
 4月 51年度会員募集、11名応募中会員3名、準会員  
 4名合格。第三期研究生7名応募中6名合格。  
 9月 二期会オペラコンサート(香川会室)  
 創作オペラ"あまんじゃくとうりこ姫"  
 (高松市民会館)  
 10月 演奏会形式によるオペラ"ドン・ジョヴァンニ"  
 (岡山市民会館ホール)  
 12月 第1回ゴールデンコンサート  
 (岡山市民文化ホール)  
 昭和52年 3月 第三期研究生卒業演奏会  
 4月 52年度会員募集(18名応募、11名合格)  
 10月 新人紹介演奏会  
 11月 二期会オペラコンサート  
 (高松19日・観音寺20日)  
 12月 第2回ゴールデンコンサート  
 (岡山市民文化ホール)  
 昭和53年 9月 二期会オペラ公演"泥棒とオールドミス"  
 "人買太郎兵衛"  
 (高松7日・丸亀9日・観音寺10日)  
 10月 モーツァルト三大オペラハイライト"フィガロ  
 の結婚""ドン・ジョヴァンニ""魔笛"  
 (岡山市民会館30日)  
 12月 第3回ゴールデンコンサート  
 (岡山市民文化ホール23日)  
 昭和54年 9月 54年度会員募集  
 (11名応募、会員1名、準会員5名合格)  
 昭和54年10月 オペラ"海の子守唄"公演(岡山市民会館11日)  
 12月 オペラ"炭焼姫"オペラ"アメリカ舞踊会へ行  
 く"(15日観音寺市民会館、16日丸亀市民会館、  
 17日18日高松市民会館)

- 第4回ゴールデンコンサート  
 (岡山市民文化ホール 22日)  
 昭和55年 4月 55年度会員募集  
 (15名応募、会員2名、準会員4名合格)  
 10月 二期会オペラアンサンブルの夕べ"コシ・ファン・  
 トゥッテ""カルメン"(岡山市民会館3日)  
 10月 あなたのオペラわたしのオペラ"オペラハイラ  
 イト""スザンナの秘密"  
 (高松14日・丸亀25日・観音寺26日・普通寺27日)  
 12月 第5回ゴールデン・コンサート  
 (岡山市民文化ホール)  
 昭和56年 3月 56年度会員募集  
 (16名応募・会員1名・準会員8名合格)  
 8月 中山梯一リード研究会  
 (岡山大学教育学部音楽教室ホール)  
 11月 オペラ"フィガロの結婚"  
 (高松市民会館19日・25日)  
 12月 オペラ"魔笛"公演(倉敷市民会館13日)  
 昭和57年 4月 57年度会員募集  
 (17名応募、会員1名、準会員9名合格)  
 7月 中山梯一リード研究会  
 (岡山大学教育学部音楽教室ホール)  
 7月 永曾信夫演劇講習会  
 (岡山大学教育学部音楽教室ホール)  
 10月 二期会オペラコンサート  
 "オペラアンサンブル""あまんじゃくとうりこ  
 姫"(岡山市民文化ホール1日)  
 12月 第6回ゴールデンコンサート  
 (岡山市民文化ホール)  
 昭和58年 2月 二期会四国支部設立  
 3月 58年度会員募集  
 (6名応募・会員1名、準会員5名合格)  
 10月 設立10周年記念オペラ"フィガロの結婚"  
 (倉敷・福山)  
 昭和59年 4月 59年度会員募集  
 (12名応募・会員2名、準会員6名合格)  
 5月 野上義臣個展(岡山市民文化ホール12日)  
 8月 永曾信夫基礎演技講習会  
 11月 二期会オペラコンサート"オペラアンサンブル"  
 室内オペラ"おこんじょうるり"(岡山・福山)  
 昭和60年 4月 60年度会員募集(7名応募・会員1名、準会員  
 3名合格)  
 4月 菱川欣三郎、山下耕司二人展  
 (岡山市民文化ホール29日)  
 8月 岸井克己メイク講習会  
 永曾信夫基礎演技講習会

会 員 名 簿

顧問 糸賀 英恵  
 理事長 近藤 安介  
 副理事長 吉田 易真  
 " 黒岩 悟  
 理事 大原 正義  
 " 岡崎 順子  
 " 平本 弘子  
 " 虫明 和子

●ソプラノ

正 会 員 後閑 睦子(岡山)在伊  
 " 佐々木英代(岡山)  
 " 中田ちほ子(広島)在独  
 " 虫明 和子(岡山)  
 " 浜崎 明美(岡山)  
 " 山下 敬子(岡山)  
 " 平本 弘子(広島)  
 " 岡崎 順子(岡山)  
 " 萱岡美津栄(岡山)  
 " 白石美佐子(広島)  
 " 山脇 恵子(広島)  
 準 会 員 梶川 良子(岡山)  
 " 宗盛ユキミ(広島)

準 会 員

高橋真砂子(岡山)  
 " 畑井知加代(広島)  
 " 古賀 照子(岡山)  
 " 森下美喜子(岡山)  
 " 河原井蔦枝(岡山)  
 " 菅野 泰枝(広島)  
 " 康広美千子(岡山)  
 " 鈴木 克美(岡山)  
 " 住元久美子(広島)  
 " 北川 純子(岡山)  
 " 安田 裕子(岡山)  
 " 松本 弘美(岡山)  
 " 平田 佳子(広島)  
 " 古里 静世(岡山)  
 " 妹尾 温子(広島)

●メソソプラノ・アルト

準 会 員 渡辺賀都枝(岡山)  
 " 矢内 淑子(岡山)  
 " 加治 郷子(岡山)  
 " 小野 容子(岡山)  
 " 友保 鏡子(岡山)  
 " 藤井 美雪(広島)  
 " 長尾 節子(岡山)  
 " 守時 浩美(岡山)  
 " 名古屋明美(岡山)  
 " 出原 昭子(広島)

●テノール

正 会 員 石田 徹(岡山)  
 " 近藤 安介(岡山)  
 " 日高 好一(広島)  
 準 会 員 中村 芳弘(岡山)

●バリトン

正 会 員 大原 正義(岡山)  
 " 黒岩 悟(岡山)  
 " 吉田 易真(岡山)  
 " 奥田 誠(広島)

●バス

正 会 員 菅谷 省三(岡山)  
 " 秋山 啓(岡山)

●関係ピアニスト

森田美智子(岡山)  
 笹岡あおい(岡山)  
 菊地 桂子(岡山)  
 服部祐充枝(岡山)  
 青木 俊子(岡山)  
 来山 千晴(広島)





HERNO

提供します!フレッシュフーズ



FRESH!

ファニー

- ベル店 ●かすみ店 ●三吉店 ●新市店 ●松永店 ●山手店 ●胡町店 ●デイジー店 ●沖野上店
- 府中店 ●木之庄店 ●府中南店 ●春日店 ●川口店 ●向島店 ●大津野店 ●蔵王店 ●中広店



洋菓子専門店

白ぼろ

福山

SALON de BLANC

ブティック・サロン ドブラン

福山宮通り

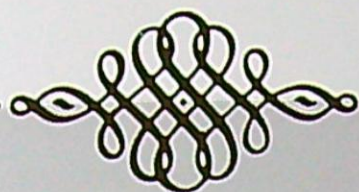
25-2777

*elled'or*  
MIMIURA

*since 1913*

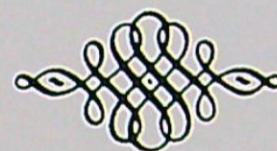
エルドールミムラ





バラの香りのティータイム〈ロシアンティーセット〉

## RUSSIAN TEA SET



## 手作りローズジャム

バラの街・福山。

豊かな自然に恵まれた環境で、

丹精込めて育てた

良質のバラの花を厳選し、その花をぜいたくに使ったバラのジャムです。

高貴なバラの香り、

甘さを抑えた風味を

おたのしみください。

合成添加物は、一切使用しておりません。

### ローズジャム・ロシアンティー

熱い紅茶にスプーン1~2杯の「ローズジャム」を入れます。バラの香りと花びらが漂う、ロマンチックなお召し上がり方です。夏期には、アイ스티ーに入れても素敵です。

— 全国酒・食品有名店連盟 —

和洋酒  
と  
贈答品

# 酒肆 守屋

福山市寺町15の1  
TEL ②31658



中国三期会  
OPERA